

新連載 直伝 木づかいのコツ 屋外での木材利用に注意  
第14回（全20回予定）  
守谷建具（埼玉県）代表 守谷和夫

[ 守谷 ]

今月もジャーナルの読者のために、面白いものを紹介するよ。

[ 月間住宅ジャーナル ]

これは、道端などに落ちていた木の棒でしょうか。

[ 守谷 ]

違うよ。30年屋外で放置した杉の四寸角の柱だ。うちの畑に転がしたのを、ブラシで泥を落としたりしたら、こんな風になった。

[ 月間住宅ジャーナル ]

まるで木材のミイラか、白骨死体のようですね。

[ 守谷 ]

30年経っても残っているのは、心材の赤身だけだ。辺材の白太は、腐ったり虫に食われたりして滅失し、ついになくなってしまった。

[ 月間住宅ジャーナル ]

木造住宅は、従来型の不動産評価で30年で資産価値がゼロになると言われています。これまでの新築木造住宅の価値は屋外暴露の白太同然だったのかもしれませんが。

[ 守谷 ]

つまり、木材で本当に価値があるのは杉の赤身だということだ。実は、昨年リフォームした自宅では、屋外にたくさん木材をつかっているんだ。軒板、縁側、玄関ドアなどに使って、塗装の経年変化や木材の腐朽の度合いを調べているんだ。

[ 月間住宅ジャーナル ]

守谷建具の木工所の隣の自宅ですね。玄関、ベランダ、軒先に惜しげもなく銘木が使われています。

読者の皆さんにあらかじめ補足説明しておきますと、これはあくまでも実験的仕様として守谷さんが施主支給したものです。工務店さんの設計ミスでは全くありませんので、ご安心ください。

[ 守谷 ]

予想以上にひどかったのは軒天だ。ヒノキ合板の一類を使ったが、今年の梅雨で表面にカビが生えてしまった。汚いとカミさんに言われて、自然塗料の塗装を塗り直したが、秋の長雨でまたカビが生えてきた。

[ 月間住宅ジャーナル ]

外装材は木目柄の窯業系サイディング。2階の軒天には一般的なケイカル板を用いています。1階軒天だけ、ヒノキ合板を実験的に用いています。写真をよくみると、白太のカビがひどいようです。空気中の湿気が桧（ひのき）の白太に付着してしまったのでしょうか。ここでは1類ヒノキ合板を用いていますが、1枚板の場合はどうなのでしょう。

[ 守谷 ]

1枚板なら少しの白太でも大丈夫だろうと思って、自然塗料を塗って使ったんだ。

ヒノキ合板というのは、最近になって盛んに製造されるようになった合板だ。表面がきれいだからついあらわしで使いたくなる。しかし、合板はロール剥きなので湿気を吸いやすくなってしまっているの、使い方には注意が必要だ。

カビが生えた原因には、今年の長雨の影響もある。去年は畑のハウレンソウがひどい不作で、台風の影響で多くが枯れてしまった。同じように軒天のヒノキ合板も記録的な長雨で予想以上に早くカビが生えてしまった。最近の異常気象では、長年の経験に頼っているだけでは、木材利用の判断が難しくなってきた。これで良いと思っても、予想外のことが起きてくる。むしろ経験は疑ってかかった方がいい。

屋外で木材を使う時の注意点としては、とにかく信用できるのは、杉の赤身だけだということなんだ。白太も、塗料も接着剤も、時間がたてば本当に屋外で使えるのかどうか、あやしくなるんだ。

月刊住宅ジャーナルジャーナル(株式会社エルエルアイ出版)

2020年04月号より転載より転載

守谷 今月もジャーナルの読者のために、面白いものを紹介するよ。

——これは、道端などに落ちて  
ている木の棒でしょうか。

守谷 違うよ。30年屋外で放置した杉の4寸角の柱だ。うちの畑に転がしといたのを、ブラシで泥を落としたら、こんな風になった。

——まるで木材のミイラ  
が、白骨死体のようなですね。

守谷 30年経っても残っているのは、心材の赤身だけだ。辺材の白太は、腐ったり虫に食われたりして滅失し、ついになくなってしまった。

——木造住宅は、従来型の不動産評価で30年で資産価値がゼロになると言われています。これまでの新築木造住宅の価値は屋外曝露の白太同然だったのかもしれない。

## 新連載

# 直伝 木づかいのコツ

守谷 和夫

守谷建具（埼玉県）代表

## 屋外での木材利用に注意

第14回

（全20回予定）



4寸角の柱と30年経過した4寸角の柱



30年屋外で放置した杉の4寸角の柱

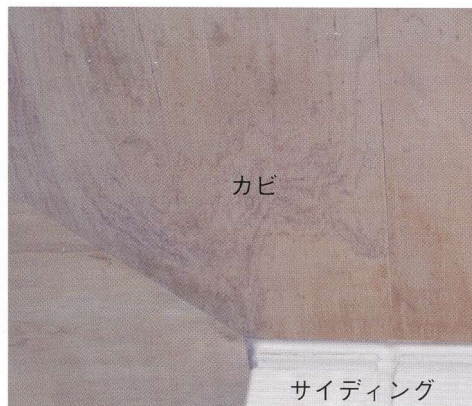


リフォーム済み守谷宅軒先にはさまざまな木材が実験的に使用されている





湿気による軒天の染み・傷み



**守谷** つまり、木材で本当に価値があるのは杉の赤身だということだ。実は、昨年リフォームした自宅では、屋外にたくさん木材をつけているんだ。軒板、縁側、玄関ドアなどに使って、塗装の経年変化や木材の腐

朽の度合いを調べているんだ。

——守谷建具の木工所の隣りの自宅ですね。玄関、ベランダ、軒先に惜しげもなく銘木が使われています。

読者の皆さんにあらかじめ補足説明しておきますと、これはあくまでも実験的仕様として守谷さんが施主支給したものです。工務店さんの設計ミスでは全くありませんので、ご安心ください。

**守谷** 予想以上にひどかったのは軒天だ。ヒノキ合板の一種を使ったが、昨年の梅雨で表面にカビが生えてしまった。汚いとカミさんに言われて、自然塗料の塗装を塗り直したが、秋の長雨でまたカビが生えてきた。

——外装材は木目柄の窯業系サイディング。2階の軒天には一般的なケイカル板を用いています。1階軒天だけ、ヒノキ合板を実験的に用いています。写真をよくみると、白太のカビがひどいようです。空気中の

湿気が桧ひのきの白太びんぎに付着してしまったのでしょうか。ここでは1類ヒノキ合板を用いています。1枚板の場合はどうなのでしょう。

**守谷** 1枚板なら少しの白太でも大丈夫だろうと思って、自然塗料を塗って使ったんだ。

ヒノキ合板というのは、最近になって盛んに製造されるようになった合板だ。表面がきれいだからついあらわしで使いたくなる。しかし、合板はロール剥むきなので湿気を吸いやすくなっていますので、使い方には注意が必要だ。

カビが生えた原因には、昨年の長雨ながあめの影響もある。昨年は畑のハウレンソウがひどい不作ふさくで、台風の影響で多くが枯れてしまった。同じように軒天のヒノキ合板も記録的な長雨で予想以上に早くカビが生えてしまった。

最近の異常気象では、長年の経験に頼っているだけでは、木材利用の判断が難しくなってきた。これで良いと思っても、予

## 補足説明 合板の分類と使用環境

1類合板は断続的に湿潤がある箇所に用いることができるとされており、主な接着剤はメラミン・ユリア共縮合樹脂接着剤。ひんぱんに湿潤のある箇所には72時間の連続煮沸試験に合格した特類合板を用いと良いとされている（接着剤は主にフェノール樹脂接着剤）。合板の組合せによると、メーカーがマニュアルで推奨する使用環境はあくまでも目安で、実際には現場（流通販売店・設計・施工）や建築主事の判断で使用するかどうかが決まるとのこと。

想外のことが起きてくる。むしろ経験は疑ってかかった方がいい。屋外で木材を使う時の注意点としては、とにかく信用できるのは、杉の赤身だけだということなんだ。白太も、塗料も接着剤も、時間がたてば本当に屋外で使えるのかどうか、あやしくなるんだ。